

# 原因ささらしに究明の要

## 水俣の奇病 東京で発表会

水俣の奇病研究班では十二日、東京芝白根町の国立公衆衛生院で奇病研究発表会を開いたが、結論は奇病の解明が病的にもその他の面でもきわめて複雑困難なものであることを示している。同日の研究会には、松田国立公衆衛生院疫学部長、川城、池田国立補

生試験所部長、尾崎、入鹿山、喜田村、各順大医学部教授、横田県衛生部長、細川新日病院長、伊藤水俣保健所長の各研究班員が参加した。同班の発表内容はつぎのとおり。

水俣の奇病は同湾の魚介をネコ、ネズミに与えて発病させているが、現地の泥でも脳に同様の病理的变化を起しうる。しかしこの変化が奇病と同じかいは今後の研究にまたねはならぬ。

が、奇病との関係は今後の研究が必要である。以上の総論としてこの奇病は諸種の調査研究と実験追及の結果、

自然発生ネコでは毛にマンガン、肝臓にセレンが多く死者の肝臓にもセレンが多いことが証明された。マンガン、セレンによるネコの実験では泥土の場合と同じ病理的所見が認められる

松田疫学部長との一問一答。  
問 これではさきまの発表より一歩もでないではないか。  
答 私も実はさきまはもつとすんだ結論がでるものと思つていた。その理由として熊大のデータがはつきりしていなかった。データがはつきりしていないといふのは、はつきりとマンガン、セレンがほかの死因の人にくらべて多いという線がまだ確認できるほどのものでなくて例外もあるからだ。また工場排水口近くの泥土を調べてもその金例がマンガン・セレンを多量に含んでいるとはいえない。同じ場所の泥土でネコに実験して死んだものもあるが、死なないものもある。  
問 工場開設以来の生産物についてその成分の分析、排水、塵キ物を検討すればマンガン・セレンがどこからきたものか判りはせぬか。  
答 それは必要だと思つが、工場の協力がなければできないことだ。戦前工場が捨てたというふうなことがあつたとしてかりに工場に責任があるとしてもセレンつめれば工場排水処理法といつたようには法律がなかつたせいだといふことになりかねない。通産省では同じ肥料をつまづっている工場がいくつもあるのに、そこで奇病が起

# 断定できぬセレン説

はなお今後の解明が必要である。というものでさきまの発表が、工場の廃棄物によつて強い汚染をうけているのではないかと海底土を分析したところ有害のマンガンとセレンを多量に検出した。として奇病の原因をさきま推測させるような発表をしたのに比べて一歩も出ていないものであるという見方もでている。

ず水俣でのみ起きているから工場排水が原因とはいえないからうといつていたが、熊大の先生から水俣湖の地形も考慮に入らなくてはとつた。つた。つた。(東京本社)